

2006年7月13日

RIETI 政策シンポジウム

全要素生産性向上の源泉と日本の潜在成長率

—国際比較の視点から

深刻な人口減少が予想される日本では、今後の経済成長の主な源泉は全要素生産性 (TFP) の上昇であると考えられていますが、TFPは1990年代以降上昇が停滞、これを如何に回復するかが喫緊の課題です。一方、欧州諸国においても生産性が停滞し、米国との格差拡大現象が指摘され、多くの研究が行われています。

RIETIではこうした問題意識にもとづき、これまで行ってきた産業・企業生産性 (JIP) プロジェクトや、環太平洋諸国の生産性比較研究 (ICPA) プロジェクトの研究成果をもとに、内外の有識者や日本の政策担当者をパネリストにお招きして、TFPに関するシンポジウム (半日) を開催します。

プログラムの第1部では、①日本における全要素生産性向上の源泉と潜在成長率、②全要素生産性についてEUは米国にキャッチアップできるか、③世界の経済成長の源泉、④韓国・台湾・中国のキャッチアップと潜在成長率、といったテーマについて、ご発表いただきます。第2部ではこれらの発表をふまえたパネル・ディスカッションを行い、議論をさらに深める予定です。皆様の御参加をお待ちしております。

日 時 : 2006年7月25日(火) 13:00-17:50

会 場 : 新生銀行ホール(東京都千代田区内幸町2-1-8 新生銀行本店1階)

言 語 : 日本語⇄英語 (同時通訳付)

参加費 : 2000円(報道関係者の聴講は無料)

プログラム

13:00-13:10 **開会挨拶** (吉富 勝 RIETI 所長)

13:10-15:30 **第1部 「日本における全要素生産性向上の源泉と潜在成長率」**

宮川 努 (RIETI 前ファカルティフェロー/学習院大学)

深尾 京司 (RIETI ファカルティフェロー/一橋大学)

「全要素生産性についてEUは米国にキャッチアップできるか」

Marcel TIMMER (蘭 University of Groningen)

「世界の経済成長の源泉」

Dale JORGENSEN (Harvard University)

「韓国・台湾・中国のキャッチアップと潜在成長率」

元橋 一之 (RIETI ファカルティフェロー/東京大学先端科学技術研究センター)

15:45-17:45 **第2部 パネル・ディスカッション**

チェア: 長岡 貞男 (RIETI 研究主幹/一橋大学)

パネリスト: 吉川 洋 (RIETI 研究主幹/東京大学)、

Dale JORGENSEN、森川 正之 (経済産業省)、

不破 久温 ((株)東芝)

17:45-17:50 **閉会挨拶** (及川耕造 RIETI 理事長)

18:00-19:00 **交流会**

【参加申込み・お問合せ】

<http://www.rieti.go.jp/jp/events/06072501/info.html>

RIETI コンファレンス担当 加瀬 (conf-productivity@rieti.go.jp/Tel:03-3501-8398)

【取材等申込み・お問合せ】

RIETI 広報企画担当 田原・三澤 (info@rieti.go.jp/Tel:03-3501-1375/Fax:03-3501-8416)